

長野県神社庁報 第100号

平成17年1月1日 発行：長野県神社庁 庁報発行委員会・庁報編集委員会
(長野市箱清水1-6-1 電話026-232-3355 FAX026-233-2720)



伊勢神宮に奉納される安曇野の山葵と林檎

100号
記念号
特集
「伊勢神宮と信濃」

目 次

庁長挨拶	齋藤 吉仁	2
総代会長挨拶	行田増次郎	2
庁報「神州」第一〇〇号にあたり		3
日誌抄		3
平成十七年の遷宮諸祭	石垣 仁久	4
神宮御神木祭を迎えて	田口 具敬	5
第六十二回式年遷宮によせて	徳原 正三	6
神宮御料の「山葵圃」「林檎圃」	穂高 光雄	6
神宮の領地「御厨」		7
神宮「初穂曳」に奉仕して	等々力良勝	8
神宮大麻頒布向上指定支部報告・計画		10
神宮大麻・暦頒布始奉告祭		11
教化部活動報告「靖國神社参拝」	畠山 直季	12
同 「庭燎の集い」	矢澤 是	12
子供参宮団参加者募集		13
御造営フォトニュース		14
新任神職の横顔		15
新任講師挨拶		16
決算報告・災害救助慰謝積決算書		17
寄付者顕彰・義援金のお願い		18
辞令		19
謹賀新年		20
御神木祭案内		24



年頭の辞

長野県神社庁 庁長 齋藤 吉仁



献奉壽春、大神の御前に謹んで新春の御挨拶を申し上げます。御皇室におかせられましては、紀宮様の御婚約が内定され、暗い出来事ばかりが続いた日本列島を、明るいニュースが駆け抜けました。洵に御目出度い限りで御座居ます。

旧年中は県神社庁の諸事業・諸施策に対しまして多大な御協力を賜り厚く御礼申し上げますと共に、本年もよろしくお願ひ致します。

特に昨年は、県神社庁にとりまして十五年に一度という大変な節目の年でした。三月十九日の第六十四回定例協議員会の役員改選に始まり、五月十四日午前第五十九回県神社庁・県神社総代会連合大会・午後東海五県神社庁連合総会・二日於て十七日から二十一日まで神社本庁五月諸会(総代会代議員会・表彰式・評議員会三日間・班整式・神社庁長会)六月東海五県中堅神職研修会・九月第四十回全国神社総代会大会・十月神社本庁臨時評議員会・五県庁長参事会・十一月五県紅葉会・等、当番県という事で多忙窮まりない年であったにも係わらず、皆様方の絶大なる御協力によりまして一つひとつの行事が恙無く終了出来洵にありがとう御座居りました。残る三月の五県教化神政連合同会議も心を引き締めて臨みたいと存じます。

昨年は夏から秋に掛け日本列島は台風の上陸が十回にも及び、中でも二十三号により全国的に甚大なる災害に見舞われました。隣県の新潟県に於きましては台風災害に続いでの中越地震により未曾有の被害を受け、多数の死傷者を出し家を失った多くの人達が今なお体育館・テント等での避難生活を余儀無くされておられる事に対しまして、衷心より御見舞い申し上げ、亡くなられた方々の御冥福を御祈り致しますと共に、一日も早い復興を御祈念申し上げます。神社本庁では、「平成十六年水害・台風及び新潟県中越地震対策本部」を設置し、各県神社庁長宛に義援金募集通達があり、これを受けて県神社庁におきましては、阪神・淡路大震災など過去の事例を踏まえて協議し、隣県として県内十七支部神社・神職の皆様方へ応分の御寄付を伏して御願ひ申し上げた次第で御座居ます。

なお、昨年四月五日に平成二十五年に御齋行が予定されております、第六十二回神

宮式年遷宮につきまして、神宮北白川大宮司には天皇陛下より御聴許を拝されました年で、愈々その御準備を開始なされます元年でも御座居りました。

県神社庁におきましては九月二十一日に神宮大麻・暦頒布向上推進委員会を立上げ、平成十四年度(一昨年度)頒布実績数を下廻らないを合言葉に、奉賛の真心を結集し増体頒布に努めて参りたく存じます。

本年六月には次期式年遷宮御造営用材を伐り出す御杣山を定め、山口祭・木本祭が齋行される、長野県民にとりまして大変美しい年であります。

県内各神社の御社頭の愈々の御隆昌と、皆様方の益々の御健勝を御祈念致しまして年頭の辞とさせていただきます。



おかげさま・「日本の心」

長野県神社総代会 会長 行田 増次郎



新年、明けましておめでとございます。

平成十七年の新春を清々しく、お健やかに迎えられましたことを心よりお慶び申し上げます。

神棚に、目にも眩しい新たなお伊勢さまをお祀りし、心身共に約かな気持ちで氏神さまへ初詣なされ、神の恵みに感謝されたことと存じます。

私たちは、いつも日常のあいさつで「おかげさまで」という言葉を素直に、気取らずに使います。

自然の恵み、人間社会など、今ある自分が全ての恩恵に支えられて生きていることに感謝した表現は素晴らしいものだと思います。

神道の神髄など知るよしもありませんが、これが長い間の生活文化より生れた「日本の心」であり、神道に繋がる一つではないかと、思えてなりません。

さて、現今の世相を背景にした神社界を取り巻く現状は、非常に厳しいことを実感しているところではありますが、私たち氏子が心一つにして、天地悠久の大道である神道興隆に最善努力することを、誓い合うことを願う次第であります。

新年にあたり、本年も氏子総代皆様の一層のご健勝、ご多幸を心よりご祈念申し上げます、愚言を添え、ごあいさついたします。

庁報「神州」第百号にあたり

戦後まもなく創刊された、庁報「神州」は、県内神職が発行・編集を担当し、長野県神社庁と神社関係者を繋ぐ機関誌として、五十年以上愛読されて参りました。お陰様にて今号は、第百号の節目を迎えることとなりました。この間、発行に際し弛まぬ御努力を重ねられました関係者各位に、深甚なる感謝を申し上げます。

現在「神州」に携わっております私たちがも研鑽を重ね、神社神道への理解を深めていただくため、より親しみやすく、愛される紙面作りを行いたいと決意を新たに致しております。御指導御鞭撻のほど、何卒宜しくお願い致します。

今号は第百号を記念し、新たな試みとして特集を組み、内容のリニューアルをはかってみました。更なる紙面の充実のため、御意見・御感想などお寄せいただければ幸甚に存じます。

日誌抄

(平成十六年七月～十月)

*教：教化部の略
*大麻：神宮大麻の略

七月

- 三、四日 雅楽研修会
- 五日 支部長会/任命辞令伝達式/教・役員会/教・調査委員会
- 八日 平林富司を励ます会
- 九日 教化部教化委員会
- 十四日 理事会
- 十五、十六日 教養研修会
- 二十、二十一 地方祭式指導者養成研修会
- 二十四 兼職祭式研修会
- 二十四、二十五 初任神職研修会(前期)
- 二十七日 祭祀舞研修会
- 二十九日 教・青少年対策推進委員会
- 三十日 第六十五回定例協議会

八月

- 二日 神職身分証書並任命辞令伝達式
- 四日 神道政治連盟長野県本部役員会
- 四、六日 浦安の舞研修会
- 十一日 少年少女庭療の集い
- 十七、十八日 靖国神社正式参拝と東京アイズニールゾートの旅
- 十九日 教・調査委員会
- 二十三日 教・祭祀委員会/教化委員会
- 二十六、二十七日 初任神職研修会(後期)
- 三十一日 大麻・暦頒布向上推進委員会 理事・支部長合同会議

九月

- 二日 任命辞令伝達式
- 九日 敬神婦人会役員会
- 十三日 神殿例祭
- 十三日、十四日 別表・特別神社富司会
- 十七日 大麻暦頒布始祭 並 頒布秋季推進会議

十月

- 十八日 神社庁長会
- 二十一日 大麻・暦頒布向上推進委員会
- 二十八日 教・祭祀委員会
- 四日 任命辞令伝達式
- 六日 大麻暦頒布始祭告祭
- 八日 神社本庁臨時評議員会
- 十四日 庁報編集委員会
- 十五日 教・調査委員会
- 十五日 教・祭祀委員会
- 十九、二十日 東海五県庁長参事会
- 二十六日 理事会
- 二十七日 教・教化委員会
- 二十九日 中信地区氏子総代研修会

十一月

- 二日 教・役員会
- 四日 神職身分証書並任命辞令伝達式
- 十八、二十一日 東海五県紅葉会

十二月

- 十二日 庁報編集委員会
- 十六日 北信地区氏子総代研修会
- 十七日 東信地区氏子総代研修会
- 十八日 敬神婦人連合会総会
- 二十五日 支部長会
- 二十八日 南信地区氏子総代研修会
- 二十九日 事務担当者会/神職総会
- 三日 教・調査委員会
- 三日 教・祭祀委員会
- 四日 大麻頒布研修会(長野支部)
- 五日 大麻頒布研修会(下高井支部)
- 五、六日 神宮新穀感謝祭参拝旅行
- 八日 階位証並任命辞令伝達式
- 十一日 大麻頒布研修会(上小・松塩筑支部)
- 十七日 理事・支部長合同会議



編集作業の様

庁報発行委員

齋藤 吉仁

小平 弘起

平林 成元

伴野慎一郎

下平 勇

中村 欽

藤井 茂信

庁報編集委員会

委員長

藤井 茂信

委員

井出 行則

工藤 種宣

白鳥 俊明

宮澤 千尋

山崎 洋文

平林 秀文

風間 辰雄

齋藤 英之

平成二十五年に斎行される神宮式年遷宮に向け、
 いよいよ本年より行事が執り行われます。
 「神州」第九七号より掲載の神宮司庁・石垣氏の連載も四回目となりました。

「平成十七年の遷宮諸祭」

神宮司庁弘報課 石垣仁久

第六十二回神宮式年遷宮の諸祭行事中で最初に執り行われるのは山口祭です。先例によりますと、間もなく御杣山の御治定、続いて山口祭・木本祭の日時御治定があります。御治定とは、遷宮諸祭の中でも特に重要な祭儀の日時を天皇陛下にお定めいただくことで、御用材を伐り出すお山である御杣山もまた御治定を仰ぎます。

御杣山ははじめ神宮の近くの宮山と定められていましたが、時代と共に変遷して江戸時代中期から信州木曾に固定されました。御杣山から用材を切り出すに際して、山口に坐す神をおまつりするのが山口祭なのですが、山口祭は御杣山が他所に移っても祭場を変えることなく伊勢で執り行われています。

木本祭は、御正殿の大床下に奉建する心御柱の御用材を伐り出すに際して行われる祭儀で、山口祭が盛大に行われるのとは対照的に、夜間少数の奉仕員だけでひっそりと執り行われます。これは、心御柱自体が神宮の神秘に

属し、人目に触れることがはばかられるからです。さて、前回は触れましたが先例によりますと、本年六月には御杣山において御杣始祭が行われます。この祭りは内宮と外宮及び別宮の御神体をお納めする御植代をお作りする御用材を伐り出すに際して行われるもので、現在は遷宮の開始を内外に示す重要な意義も帯びています。

御杣山に並び立つ二本

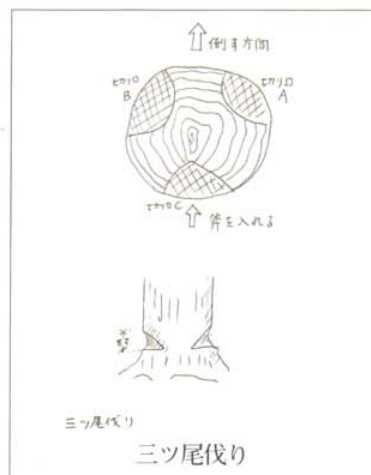
本の檜の大木の前を祭場と定め、先ず皇大神宮の御植代木を伐り奉る祭典を執り行い、続いて豊受大神宮の祭儀を同様に行います。次に神宮の営林

部員が杣人となり、初めに皇大神宮御料の檜を伐り、次いで豊受大神宮御料の木が既に切り倒されている皇大神宮御料と交差するように切り倒されるのです。

この際に用いられる伐採法を「三ツ尾伐り」といい、心抜け・元割れの恐れがない手法で、貴重な樹木の伐採時に用いられます。御木の切り口は三カ所で、その下部は水平にし、そこから八寸ほど上から中心に向かって斜めに斧を入れます。そうすると幹には三点が残ります。この時、倒れる予定地に二点が来るようにし、残りの一点に斧を入れると思つた通



伐採される豊受大神宮の御料木
 昭和60年6月3日 木曾郡上松町の御杣山祭場



りの方角に切り倒すことができます。その後御植代木は御杣山の地元上松町を始め、各地で盛大な歓迎を受けながら数日をかけて伊勢に運ばれます。伊勢に到着後は、御植代木奉曳式、御船代祭が行われます。

伊勢神宮御神木祭を迎えて

御神木祭 木曾奉賛会長 田口具敬



古来より伊勢神宮式年遷宮は二十年毎に斎行されておりますが、第六十二回の遷宮は平成二十五年に予定

されております。

その重要な諸儀式の中で、御神体がお鎮まりになる「御植代」の御用材を伐り出す御杣始祭が、平成十七年六月木曾赤沢国有林内で執り行われる予定です。今回の御杣始祭も長



御杣始祭

宮・外宮の二本の御神木が交差するよう「たすき掛け」といわれる古式ゆかしい作法を習得した方も高齢となり本番に向け若手の育成が急務となっております。また、伊勢

野県の木曾の地が選ばれた事は、日本三大美林の木曾檜の森林を持つ木曾住民にとり誇りであります。

皆さんもご存知の通り、木曾檜の歴史は江戸時代より尾張藩の「檜一本首一つ」と言われる厳しい保護政策のもとで守り育てられてきたものです。多くの先人達が守り育てた木曾檜は建築材の最高級用材として親しまれておりますが、昨今の経済事情を反映し状況は厳しいものがあります。

式年遷宮が二十年に一度行われる事により日本古来の我が国の伝統と文化、更には木造建築手法等を継続していく本質的な姿と承っております。二十年という年月は時代も変貌し、御神木伐倒にあたる杣夫にしても、内



前回の奉迎の様

神宮に対する信仰心も若い人たちは薄れてきている現状です。

今回の伊勢神宮御神木祭を契機とし、日本の祭りとして、改めて歴史を回想し、技術・文化の伝承の重要性と、木曾檜が日本産木材で最も優れている木材であると認識していただければ幸いです。また、木曾路から伊勢路へと奉送される間、奉祝行事に多くの方々に参加をしていただく事により、木曾住民はもとより、長野県民と伊勢神宮とのつながりを後世に伝える責務を果たす所存です。何卒皆様御賛同を賜ります様お願い申し上げます。

第六十二回式年遷宮によせて

神社庁木曾支部長 徳原正三

新年あけましておめでとうございます。

皆様様の益々の御繁栄を



お祈り申し上げます。第六十二回伊勢神宮式年遷宮が、平成二十五年来に斎行されるに先がけ、本年は、木曾谷と裏木曾にてそれぞれに御杣始祭が行われ御植木が奉伐されます。

期日は左記の通り決定と相成りました。

六月三日(金) 赤沢国有林(神宮美林)

にて御杣始祭・奉伐

六月四日(土) 奉曳 午前十一時頃より



20年前に奉仕する支部神職

町内奉曳、午後五時上松

駅前奉安の後奉迎行事

六月五日(日) 奉祝行事・奉納芸能等

六月六日(月) 奉送 午前八時奉送行事

午前九時三十分出発

木曾谷各所に於いても奉迎送行事が行われます。御承知の通り、この御神木は大御神様のお鎮まりになります最も神聖な御木であります。この御神木の奉曳行事は、大御神様と唯一身心が一つになれる祭事であると今更ながら肝に銘じた次第です。(過去、昭和四十年、昭和六十年に奉仕した反省として)

今回の御神木奉賛行事は、諸般の情勢が大変厳しい中で行われます。神職諸兄皆様を始め、長野県下の総氏子の皆様方の絶大な御協賛とお力添えをこの奉曳行事に賜らんことをお願い申し上げます。

神宮にお供えされる
信濃のわさびとリンゴ

神宮御料の「山葵圃」「林檎圃」

穂高神社 禰宜 穂高光雄

(矢原神明宮・小倉諏訪神社 兼務宮司)

安曇野穂高の特産品である山葵と林檎が、



神宮山葵御料圃

毎年三回、伊勢神宮の御神饌として御供えされております。

一月三日の元始祭、二月十一日の建国記念祭、十一月二十三日の新嘗祭に際し、それぞれ山葵二百本、林檎二百個が献上されています。

伊勢神宮の諸祭典に御供えする、野菜や果物のほとんどは、度会郡二見町にある「神宮御園」などで栽培され、神宮関係者により自給自足されているのですが、安曇野の山葵・林檎は、特別の縁により献ぜられております。

山葵の献上は、南安曇郡穂高町宮地鎮座



奉納されるリンゴ

の矢原神明宮が行っています。矢原は古く伊勢神宮の神領「御厨」でありました。領地の広さは一、八九一町といわれ、全国四十ヶ国・一、三八〇数箇所に存在した神宮神領の内、最大の御厨であったとされます。昭和二十三年、時の氏子総代らが神宮に参上し、特産の山葵を御神饌として献上したいと申し出ました。矢原の地が伊勢神宮に古来より奉仕してきた縁故と、氏子の熱誠が実を結び現実の運びとなりました。

大王農場の一角が御料圃「山葵圃」と定められ、毎年、山葵の花が咲き誇る五月七日、祭典が厳粛に斎行されます。祭典は伊勢神宮よりの神職二名と、矢原神明宮宮司および地元神職二名の御奉仕により、神宮祭式に則り行われます。当日は、園主・町長・町議・区の役職員代表など多数が参列します。

このような御縁により、第五十九回神宮式年遷宮に際しては社殿一棟の御譲与を受けております。林檎の献は、南安

曇郡三郷村小倉鎮座の諏訪神社が、昭和三十五年に奉納を申し出たことに始まります。前述したように、神宮の神饌物は「神宮御園」で栽培されます。林檎は「暖地りんご」を、御園にて生産したのですが、あまり芳しい成績を上げることが出来なかったようです（山葵も同様と伺いました）。そこで、昭和三十六年、三郷村小倉・降幡広志氏所有の林檎園の一角が「神宮御料菜果圃」に定められ、三郷村果樹生産組合により林檎が献上されることとなりました。現在は神宮御料林檎奉賛会が献上を続けています。毎年五月八日、白い花が咲き誇る林檎園にて、前日の山葵祭と同じ祭員により祭典が斎行されます。

園主・氏子総代らの関係者は、伊勢神宮との繋がりを大切に農事に勤しみ、崇敬の真心を捧げ続け、より良い山葵・林檎の献上に努力しております。

古くから信濃と繋がり

伊勢神宮の領地…御厨

伊勢神宮の領地を「御厨」といいます。信州にも何カ所かの御厨が存在しました。中でも、大町市の仁科御厨に鎮座する仁科神明宮（横澤万亀男宮司）は、伊勢神宮の

社殿と同じ「神明造」の御本殿（国宝）などが日本最古のものであり、当時の信仰形態を現在に伝え、御厨としての面影が色濃く遺る神社です。

神社庁大北支部、総代会大北支会では、昨年八月開催した連合大会で、大町市文化財審査委員長の篠崎健一郎氏より「仁科氏の信仰」と題し、伊勢の信仰と地方の関係などの講演をいただきました。

《講演要旨》

平安時代を中心に、大北地域の伊勢神宮の領地だった地域は、「仁科御厨」と呼ばれていた。

当地を治めた豪族・仁科氏は、伊勢神宮へ上分料と呼ばれる貢物として、植物の織維から作る「からむし」と称する、布十反を毎年納めていた。一反は幅八五cm、長さ約十三mである。この布はお金の少ない時代にはお金の代りに流通していた。伊勢までは二人で担ぐ長櫃に入れ、責任者・警護員・人足など含めると、十人位が伊勢まで行っていた。

伊勢でお神札をいただくいき、参拝後帰郷してから、村人に伊勢の話をするなどとして、お伊勢様の信仰が始まった。やがて鎮守の社にも伊勢のお神札を祀るようになり、これが仁科神明宮の創建になったと推測される。



歌川広重 画 伊勢まいり「宮川の渡し」

仏教が伝わる以前の古代日本人は、はじめから、社殿を作り拝礼していた訳ではなく、大木や大きな岩や山の上、ストーンサークルなどで神様を祀っていた。仁科神明宮は常設の神殿の始まりであったと推測される。現在の仁科神明宮は破風板が伸びてそのまま千木になっており、古い形がそのまま残っている。

伊勢神宮は皇室の祖先で、日本人の祖先でもある神様を祀っている。かつては一般の人々の直接、幣を捧げての参拝は難しいところであったが、中世以降、お札を全国の有力者に配布したり、参拝の折に便宜をはかる「御師」と呼ばれる人達の力により伊勢神宮の崇敬と信仰は、大きく広まった。

大北地方にも、堤氏という伊勢の御師が、今の大町市八日町付近で活動していた足跡が残っている。各村には伊勢講と呼ばれた信仰集団ができ、御師の手筈で代表者が代参してることが多かった。

若者が社会見学を兼ねて伊勢に行くこともあった。大北地方からは木曾路を通り熱田から海を船で渡った。御師である堤氏の屋敷に着くと、泊まり案内をしていただき、お神楽をあげ、歓待を受けた。戴いたお神札の中には、何度も祈祷しお祓いをした「万度様」とよばれるお札もあった。このお神札を祀ったところが、北安曇郡松川村や

南安曇郡穂高町中房にある「万度様」である。

参拝に行った人が、宴席で覚えてきた歌が伊勢音頭で、県下各地にも広まっていった。この時の囃し歌は、獅子舞の囃し歌として近隣各地に残っている。仁科氏は武田氏に滅ぼされるまで、伊勢神宮へ上分料を運び続けた。滅亡後は神明宮のお宮と造営事業が遺ったが、仁科氏の遺したものは、国宝仁科神明宮だけでなく、貴重な文化財として、神社仏閣などに多くの痕跡が残されている。

一日神領民・第三十三回
神宮初穂曳を奉仕して

穂高神社 権禰宜 等々力良勝
伊勢神宮の「初穂曳」は、神嘗祭（新穀を神宮に捧げる、最も大切とされる祭典）に、伝統ある初穂の奉納を、伊勢ならではの盛大なお祭り行事にしていくことを主たる目的にして、三十三年前に始められたものです。

また、奉曳車の組み立て方や木遣りなど、式年遷宮の行事「お木曳」「お白石持」など伝統と技術の継承という意義も含まれています。

昨年十月十五日第三十三回初穂曳が行わ



初穂曳き

れました。台風一過の秋空のもと、一日神領民として、全国より三百三十名が伊勢に集いました。今回長野県は、中信地区より五名が奉仕いたしました。

初穂曳は内宮・外宮の両宮で行われますが、私たち一日神領民は外宮のみの奉仕となります。お揃いの法被に着替え、神宮会館で結団式を済ませ、バスにて出発地点である高柳商店街に到着しました。加藤光徳・神嘗祭奉祝委員長(伊勢市長)の挨拶の後、伊勢神宮奉仕会青年部長の指導により出発しました。

一番車は地元のボーイスカウト・ガールスカウト・スポーツ少年団の子供らが奉仕、二番車は旧神領民・市内企業の人々が奉仕、一日神領民は三番目の奉曳車を奉仕することとなりました。

五色に色分けされた引き手は綱につき、「エンヤール」の掛け声とともに力を併せ車を曳くと、「オー、ブーン」という木の擦れ合う音が鳴ります。法螺貝の音にも似たこの音を「わん鳴り」というそうです。やがて、初穂を積んだ奉曳車が動き出しました。途中で綱を上下にさせたり、二本の綱を合わせたたりしながら、晴天のもと曳き場所を替えながら進みました。

今回は、天皇陛下の御聴許により、平成二十五年の式年遷宮が決定された「遷宮元年」として盛り上がる中、伊勢市駅前の大通りは踊り広場となっております。地元伊勢音頭をはじめ、日本三大民謡(阿波踊り・花笠踊り・郡上踊り)や長野の木曾踊りなど、九つの団体が奉祝の踊りを披露しました。賑々しい雰囲気の中、ここに全ての奉曳車が集合し、連なって外宮へと向かいました。

外宮駐車場へ到着の後、各県神社庁より奉納された新穀(茎付きの初穂)を手に外宮五丈殿に献納し、御垣内参拝を行いました。午後一時より約二kmの道のりを曳き、午後四時半までの行程でしたが、無事に終



伊勢の町を練り歩く

了することが出来ました。

当日夜には、豊受大神宮(外宮)神嘗祭由貴夕大御饗儀を奉拝させていただきました。午後十時、木々に囲まれ静寂の境内では、松明の明かりをもとに、祭主様以下神職が参道を進み、外宮正宮に着座され、奏楽の中、祭儀が奉仕されました。神々しい祭典を目の当たりにし、神宮の御神意を身を以て感ずる素晴らしい体験ができました。

お伊勢さまの御神札

「神宮大麻」は、我が国の総氏神様である伊勢神宮のお神札です。

御祭神である天照大御神さまの、太陽のように暖かく、恵み多いその御神徳は、すべての人々に平等にそそがれ、災厄より私たちを護ってくださいます。

大麻の頒布は、神職・総代が託されております大切な奉務です。

長野県神社庁では、平成十二年より神宮大麻頒布向上指定支部を指定し、神宮大麻頒布数の更なる向上を図っております。

第四期 頒布向上指定支部活動報告

北佐久支部長 水沢光男

平成十五年度、当支部の頒布体数は一六、八三八体で、前年比六三三体の減体でありました。頒布従事神職十四名の内、前年より増体が五名、同体が三名、減体が五名という結果であります。

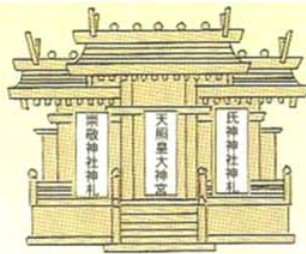
十六年度は、神宮大麻・曆向上推進委員会の対応諸策の順守を計るとともに昼夜とわず頒布努力をして頂いている氏子総代や世話人皆様の更なる御協力と、前年度、残念ながら減体となってしまう神職の奮起をお願いしたいと存じます。

神宮大麻

上高井支部長 山岸清人

指定支部として、十一月末支部内十五地区の代表総代参列のもとに支部大麻頒布祭を斎行し、各々中大麻を授与した。また、各神社に於いて氏子総代に大麻を必ず拝受して頂いた。氏子総代各位には、率先して親戚縁者知人に未奉斎家庭の無きよう御高配を戴いた。

更に、若穂の高野神社氏子区域を神社庁



三社造り



一社造り

神棚の祀り方

教化部の方針による訪問頒布の指定神社と定め、未奉斎の家庭には、神棚を持参し、大麻を受け取っていただいた。

片山宮司の先導の元、県内神職多数の奉仕を頂き、また平成十七年大麻頒布始祭席上においては頒布奉仕者に対し、感謝状を送るなど頒布向上を計った。

第五期 頒布向上指定支部活動方針

上水内支部

頒布向上の指定を受け、支部管内神職総代目標達成に向け施策に従い、頒布率向上に寄与します。

一、管内神社に於ける、実勢氏子戸数の確認を行い、実情を数値としてとらえる。

一、目標値実勢氏子戸数に対し九割の普及

一、頒布始祭を斎行し関係者の意識を向上

一、神宮大麻問答集による実務知識の向上

一、実勢氏子戸数に対する頒布の精度確定

一、流出氏子に対する追跡頒布の実施展開

以上六項目の施策を実施し、式年遷宮造営に資する為邁進いたします。

第一目標は、現状維持を目標に活動した。

大北支部

増体活動として氏子総代の為の神宮大麻問答集を購入。(南安曇支部発行のもの) 総代の意識を高め活用をする。

支部主催(支部内三地区)の氏子総代研修会(六月開催)で頒布の事を知らせて早めに活動をしている。

神棚の無い新氏子家庭用に、支部教化費より毎年簡易神棚を五十字購入。神宮大麻並びに氏神様のお札を受けていただいた家に無料で差し上げている。

神宮大麻・暦・お祓いを重ねて各ご家庭に 頒布始奉告祭・齋行

神宮大麻は、伊勢神宮の神域内で、清浄な上にも清浄を期して、一体一休手作りで奉製されています。

「大麻修祓」などのお祭りを済ませ、出来上がった大麻は各県の神社庁に送られます。

神社庁では「神宮大麻・暦頒布始奉告祭」を齋行。その後、各支部へと渡された大麻と暦は、さらに幾多のお祓いを重ね、年末に神職や神社総代さんの手によって、皆様のご家庭へ頒布されます。

昨年十月六日、長野県神社庁神殿にて、奉告祭が厳粛に齋行されました。また左記の頒布優秀支部及び優良頒布奉仕者に対し表彰が行われました。

◆神宮大宮司 表彰

頒布優秀支部

大北支部・更埴支部

優良頒布奉仕者特別表彰

住吉神社 宮司 飯田 泰之(南安曇)

頒布優良奉仕者(神職)

熊野皇天神社 欄宜 水澤 光男(北佐久)
草創神社 宮司 水科 民英(上小)



(敬称略)

小井川賀茂神社宮司 有賀 寛典(諏訪)
泰山神社 宮司 座光寺為典(飯伊)
御嶽神社 宮司 武居 哲也(木曾)
南和田神社宮司 森井 道男(松塩筑)
和泉神社 宮司 遠藤 和正(同)
仁科神社 宮司 羽田 浩一(大北)
常磐神社 宮司 風間 辰雄(飯水)
犀川神社 宮司 齋藤 英之(長野)

頒布優良奉仕者(神職以外の者)

長倉神社 総代 柏木 良夫(北佐久)
大宮神社 総代長 湯澤 廣雄(飯伊)
広田社 総代会長 井口 章(松塩筑)

◆神社庁長 表彰

神職

大伴神社 欄宜 金井 重忠(北佐久)
諏訪神社宮司代務者 小林 史人(同)
諏訪神社 宮司 池内 宣裕(上小)
水無神社 欄宜 宮田 利彦(木曾)
阿禮神社 宮司 塩川 秀實(松塩筑)
神明宮 宮司 永持はな子(同)
諏訪神社 権欄宜 一志 治夫(大北)
長池神社 宮司 倉澤 祇(長野)



総代

諏訪社 総代長 日向 完一(南佐久)
駒形神社 世話人 佐藤 龍作(北佐久)



小平齋主より齋藤庁長へ大麻を授く

遠近宮 世話人 小須田 睦(同)
諏訪神社 世話人 市村 政市(同)
長倉神社 世話人 土屋 とり(同)
長倉神社 世話人 佐藤今朝義(同)
諏訪大社 大総代 小口 治男(諏訪)
諏訪大社 大総代 藤森 正好(同)
諏訪大社 大総代 牛山 光雄(同)
諏訪大社 大総代 小林 逸(同)
諏訪大社 大総代 今井 邦夫(同)
須佐男神社責任役員 櫻井 秀夫(木曾)
深志神社 責任役員 金井 利曉(松塩筑)
手塚神社 責任役員 窪田 繁志(同)

神社庁 教化部の活動

「中学生が靖國神社参拝・ 二六六四TOKYOツアー」

青少年対策推進委員会

副委員長 島山直季

去る八月十七日～十八日、「二六六四TOKYOツアー」と題し、神社庁教化部青対委員会が主管する、靖國神社参拝旅行が行われた。本事業は、中学生に我が国の



靖國神社に参拝

正しい歴史を学習してもらう為、靖國神社に参拝し、現在の豊かな社会は、国事国難に際し尊い生命を捧げられた英霊のお陰であると認識し、感謝の誠を捧げることを目的としており、本年度で四年目となる。

県内各地より三十二名の参加者あり、初日は車中で親睦を深めつつ、東京デイズニールランドへと向かった。小雨模様の天候であったが、閉園時間まで大いに満喫できたようだ。

二日目は車中で参拝前の事前学習として、委員から靖國神社についての講義があり、さらに映画「私たちは忘れない」を鑑賞した。午前中は、戦中戦後の暮らしが解るように、当時の資料や実際の生活用品を展示している「昭和館」を見学。現在の生活との格差に、皆驚きを覚えたようだ。昼食後は、靖國神社に正式参拝。湯澤宮司さまよりご挨拶をいただき、昇殿参拝を済ませ、境内にあ

る「遊就館」に向かった。

館内では我が国や靖國神社の歴史を学び、更に英霊の遺言を拝読した。参加者それぞれの心の中には、英霊に対し深い感謝の気持ちが芽生えたことと思う。

中学生諸君のこれからの人生において、この貴重な体験が、大きな礎となることを期待している。

「昨年より賑わい増す… 庭燎の集い」

青少年対策推進委員会

副委員長 矢澤 是

八月十一日、長野縣護國神社にて氏子子弟三十一名を集め、英霊を偲ぶ「庭燎の集い」が行われました。庭燎とはお祭りの時などに灯す「篝火（かがり火）」のことです。

昼食時に出していただいたスイートンは、当時の食事を知る良い機会でした。もちろん、食料難の頃の物とは比べることはできません



長野縣護國神社にて参拝

薄暗くなってきた中、集まった子供達は火打石を使い、自作の提灯へ悪戦苦闘しながら火をつけていました。そうして灯された火は淡くやわらかい光を放ち幻想的でした。

厳肅なだけではなく、神輿の宮入りや、出店もある夏祭りらしさもありません。

盆踊りでは参加した子供達に一般参加者も加わり大きな輪になって踊っていました。昨年より始まった事業ですが、賑わいが増し、徐々に浸透してきたという手応えを感じました。

●大好評につき本年度も開催決定！「第11回 子供参宮団」●

平成17年3月24～25日(1泊2日) 参加費 16,000円

伊勢の神宮と名古屋港水族館の旅

- *日本の最高神「天照皇大御神」様をお祀りしている伊勢神宮でお参りと、珍しい「火鑽り見学」。神楽殿では巫女さんの舞も見られるよ。
- *金メダリスト・野口みずき選手が、アテネ五輪のレースで身につけていたのは伊勢神宮の「赤い袋入りお守り」。同じお守りを受けてみる？
- *超おもしろ・名古屋港水族館では世界最大級のメインプールでイルカパフォーマンス。日本の海から南極の海まで、5つの海をめぐったり、熱帯魚の泳ぐ水中トンネルや人工雪の降るペンギン水槽も大人気。カクレクマノミもいるよ。

春休みの
楽しい思い出を
つくろう！

日程

(24日)	(25日)
(6:00～8:00) 県内各地を出発	8:00 神宮会館発
12:30 昼食	8:15 伊勢神宮内宮 参拝 (雅楽教室・火鑽り見学)
14:30 伊勢神宮外宮 正式参拝・ 御神楽奉納	10:00 伊勢神宮 発
16:00 おかげ横町散策・お買い物	12:00 昼食
17:00 神宮会館(宿泊)	13:00 名古屋港水族館 見学 (約3時間を予定)
	(19:00～21:00) 長野県内各地着 (車内にて夕食)

*都合により行程が変更になる場合もございます。参加者には詳細パンフレットをお送りします。

《開催日》平成17年3月24日(木)～25日(金)

《対象》小学4・5・6年生(中学生も可)

《募集人員》150名

《旅行代金》1名 16,000円

◎往復バス代 ◎一泊五食 ◎参拝玉串料 ◎神社奉納料 ◎水族館入館料 全て含みます。

《食事》朝1回、昼2回、夜2回

《宿泊》神宮会館(伊勢神宮崇敬会が運営するホテルです)
伊勢市宇治中之切町152 TEL0596-24-7162

《申込期限》平成17年1月20日

(定員になり次第締切らせて戴きますのでお早めにどうぞ)

《申し込み先》地元の神職にお申し込み下さい。

尚、集合場所等は、後日、詳しくお知らせ致します。



県内神社の御造営を紹介します

御造営フォトニュース

●諏訪神社

(佐久市原 鎮座)

宮司代務者 伴野 慎一郎

本殿、拝殿改築 工費 二千三百万円

七十九年ぶりの改修工事であり、拝殿の建替えを目的としたが、氏子の熱誠により奉賛金が多額に集まり、拝殿の他、御本殿土台の改修と屋根を銅板葺きにする工事、鳥居の修復まで行うことができた。



佐久市原 諏訪神社

●神明宮 (会田御厨神明宮)

(東筑摩郡四賀村会田鎮座)

宮司 大塚 利彦

社務所新築他 総工費 三千六百万円

二十一年式年遷宮記念事業として古い社務所を取り壊し、新たに社務所を含めた参集殿百五十平方メートルを新築し、本殿と渡り廊下でつなげた。加えて本殿内、装飾畳替え、舞宮の基礎の補強と屋根の全面葺替、四脚の大鳥居の腐食部分の補強を行った。伊勢神宮神嘗祭に合わせ、二十一年に一度の百五名の稚児行列、四十五年ぶりに復活の浦安の舞、餅なげを奉祝行事として行った。



会田御厨神明宮 参集殿

●宇賀神社

(上水内郡信濃町野尻琵琶島鎮座)

宮司 宮川 滋彦

大鳥居建替

総工費三千万円

大鳥居の老朽化により、木造では県下最大級の両部鳥居を目指し建替に着手。八月三日竣工。当初、鋼鉄製やFRPも検討されたが、野尻湖の中の小島であり、大型重機の運搬や建設方法に制約があるため、今回は木材でも特に耐久性に優れたカナダ産檜を使用し建立。現在は白木のままであるが、木が乾燥するのを待って朱色に塗る予定。総工費三千万円は、地元の氏子を始める多くの皆様からの寄付による。



野尻湖の小島に鎮座する宇賀神社

新しく任命された神職を紹介します

新任神職の横顔



佐藤浩一郎 三十一歳
武水別神社 権禰宜
更級支部

権禰宜を拝命いたしましたから約三ヶ月が経ちます。奉職して改めて思いを強くしますのは、わが国古来の神道信仰の大切さと伝統文化の重みです。

靈性の時代といわれてから久しく経ちますが、世相は益々混迷しております。未熟ではありますが研鑽に励み、斯界の発展にこれ努めると共に、僭越ながら人々の手本となるような存在を目指したいと考えております。どうか先輩の皆様方のご指導とご鞭撻をお願い申し上げます。



山本 毅 三十五歳
手長神社 権禰宜
諏訪支部

今般、権禰宜の辞令を拝命し、誠に畏き事と感じ入って居ります。旧年は御造営にて「諏訪大明神絵詞」の「違犯ノ者ハ必ズ神罰ヲカウフル 垂迹以来越年ノ例ナシ」とあるを御神託と承り、大宮様秋一、二を筆頭に末は小祠に至るまで奉仕させていただき、誠に恐れ多き事でございます。

新年乙酉歳、終戦の詔勅を賜ってより干支一回帰せるに遭い昨年謹植の郡内招魂社の慰霊の櫻の満開を期しつつ年々歳々人同じから、ざれども神域平穩に万歳過ぐるを祈念し、終生の抱負とさせていただきます。



太田 陽一 三十五歳
小川神社 禰宜
上水内支部

昨年七月に禰宜を拝命いたしました。長野県神社庁で辞令をいただいた時の感激を忘れずに、日々の神明奉仕に励みます。

今年も年男でもありますので、気持ちも新たに必要となる知識の修得や、技能の研鑽に勤しみながら氏子の皆様に親しまれるような神職を目指したいと思っております。

これからご指導、ご鞭撻を賜りますようお願いいたします。



小谷 拓実 二十四歳
諏訪神社 禰宜
上水内支部

この度、諏訪神社禰宜を拝命いたしました。気持ち新たに御奉仕させていただいております。

しかしながら日々己の未熟さを痛感し、反省する毎日です。先輩神職の方をはじめ、全ての方から学ぶ気持ちで、神職として、人として成長していきたいと考えております。まだまだ未熟ではありますが、日々の神明奉仕に励み、神職としての職責を全うしていけるよう、精進していきたいと思っております。



武藤 弘樹 二十一歳
熊野出速雄神社 権禰宜
長野支部

社家に生まれ、神社の境内で遊び、当たり前の様に神職の資格を取りました。

しかし、神社界のことは何も知りません。まだ学生の身ですので少しずつ勉強していきたいと思っております。



本年度より、神社庁の各種講師として
就任いただいた皆様にご挨拶いただきます。



祭式講師

有賀 寛典

この度、図らずも神社庁祭式講師を拝命することとなり、驚愕しているところであります。祭式助教として講師の先生方の下、末席を汚しておりましたが、自分自身がその職に就くことになるとは考えてもいませんでした。しかしながら、御推薦頂きましたからには、微力ではありますが、精一杯努めて参りたいと思います。

浅学非才であります。皆様方の御指導御鞭撻を頂きまして、祭式講師の職を全うしたいと思っております。何卒宜しくお願い致します。



祭式講師

水野 邦樹

この度、図らずも祭式講師に就任することになりました。元より浅学非才の身、その器ではありませんが、皆様方と共に研修させて戴きたく、宜しくお願い申し上げます。

す。

今まで、助教として研修会に出講させていただき感じたことは、参加される神職の方々が、いつも同じ顔ぶれの方です。

昨年度より、各支部単位での開催となり、また支部毎に地方祭式指導者が置かれ、より身近に祭式行事作法等が、研修できる環境が整ったのではないかと思われま。

支部内の顔なじみの方々の方々の研修会です。もっと気軽に参加して戴ければ幸いです。



「浦安の舞」
講師補

伊藤 宣子

新年、明けましておめでと。ございます。

昨年、神社庁「浦安の舞」講師補を拝命致し、八月の研修会には早速お手伝いをさせて頂いていただきましたが、二十名を超える受講者の数に、改めて「浦安の舞」への関心の強さと神楽の重要性を感じる事が出来ました。

受講者の中には、ご自身で舞われる方、指導者として氏子の皆さんに教える方、様々の立場の方がいらっしゃいます。それぞれの疑問が少しでも解消されるよう、微力ではありますが力を尽くして務めて参ります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

頒布品のお知らせ

長野県神社庁推奨の「高級麻」

◎1kg入り 九、五〇〇円

【送料・消費税を含む】

◎お申し込みは神社庁まで



平成15年度長野県神社庁歳入歳出決算書

歳入の部

(単位：円)

款	科	目	決 算 額	予 算 額	比較増減△	附 記 説 明
1	幣 帛 幣 饌 料		781,600	760,000	21,600	神社本庁より
2	交 付 金		105,700,000	105,700,000	0	本庁交付金
3	負 担 金		37,618,500	37,223,500	395,000	第一負担金、神社負担金、神職負担金
4	協 賛 金		930,000	710,000	220,000	特別寄贈金、寄付金
5	財 産 収 入		147,050	130,000	17,050	財産利子配当金
6	補 助 金		120,000	120,000	0	神社本庁より参事給与補助金
7	各 種 証 明 料		4,319,200	4,080,000	239,200	神職任命登録料、承認料、各種手数料・証明料、階位授与交付金
8	諸 収 入		3,511,186	3,000,000	511,186	賽物収入、雑収入
9	管 理 収 入		621,000	650,000	△29,000	庁舎管理収入、関係団体管理収入
10	過 年 度 収 入		50,000	50,000	0	
11	繰 越 金		6,767,930	6,776,500	△8,570	
	合 計		160,566,466	159,200,000	1,366,466	

歳出の部

款	費	目	決 算 額	予 算 額	比較増減△	附 記 説 明
1	神宮神徳宣揚費	交付金	50,740,000	50,760,000	△20,000	支部へ
2	幣 帛 幣 饌 料		8,245,370	8,150,000	95,370	別表及特別神社、本務・兼務神社、献幣使参向神社、幣饌料供進神社、献幣使・随員旅費等
3	会 議 費		3,947,596	5,050,000	△1,102,404	役員監事会費、協議員会、正副庁長会費、支部長会費、委員会費、事務担当者会費、その他
4	庁 務 費		42,031,239	43,638,000	△1,606,761	神事費、儀礼費、役員報酬、諸給及福利厚生費、需要費
5	負 担 金		26,404,600	26,404,600	0	本庁負担金、本庁特別納付金
6	事 業 費		13,567,489	15,616,000	△2,048,511	大麻頒布費、教化部費、庁報発行費、神社振興対策費、職員研修費、東海五県連合会費、その他
7	研 修 諸 費		216,849	200,000	16,849	神社庁研修諸費
8	庁 維 持 費		648,377	310,000	338,377	修繕費、設備費、火災保険費
9	交 付 金		3,345,174	3,400,000	△54,826	神職会交付金、総代会交付金、災害慰藉特別会計
10	奨 励 金		1,087,400	1,087,400	0	奨励金
11	積 立 金		4,150,000	4,000,000	150,000	基本金積立金、役員退職積立金、五県連合総会積立金、神道帛揚資金積立金、その他
12	補 助 金		50,000	50,000		時局対策費
13	予 備 費		0	534,000	△534,000	
	合 計		154,434,094	159,200,000	△4,765,906	

平成15年度長野県神社庁災害救助慰藉特別会計歳入歳出決算書

歳入の部

(単位：円)

款	科	目	決 算 額	予 算 額	比較増減△	附 記 説 明
1	負 担 金		3,340,000	3,325,000	15,000	支部負担金、神職掛金
2	繰 入 金		700,000	700,000	0	繰入金
3	雑 収 入		2,063	0	2,063	雑収入
4	繰 越 金		0	0	0	繰越金
	合 計		4,042,063	4,025,000	17,063	

歳出の部

款	費	目	決 算 額	予 算 額	比較増減△	附 記 説 明
1	災 害 慰 藉 費		809,000	1,780,000	△971,000	神社災害慰藉費、神社総代慰藉費、神職災害慰藉費
2	神 職 掛 金		2,140,000	2,125,000	15,000	神職掛金積立金、神職掛金支払金
3	本 庁 災 害 慰 藉 費		52,570	55,000	△2,430	災害対策資金
4	運 営 費		33,600	65,000	△31,400	事務費、会議費、旅費、雑費
5	予 備 費		0	0	0	予備費
	合 計		3,035,170	4,025,000	△989,830	

寄付者顕彰 (平成16年8月～12月)

各神社からの申請により、下記金品の寄付者に対し感謝状が授与されました。
赤誠の真心を奉納いただいた皆様に改めて感謝の意を表します。

(支部名・神社名・鎮座地・授与の理由・氏名) 敬称略

神社本庁総裁 感謝状

壱千万円以上寄付

[諏訪支部] 諏訪大社(下諏訪郡) 式年造営御柱大祭に多額の浄財
山田ライスセンター 山田三夫、有賀善三

神社本庁統理 感謝状

参百万円以上寄付

[諏訪支部] 諏訪大社(下諏訪郡) 式年造営御柱大祭に多額の浄財
(株)カネモト代表取締役 伊藤進、高木久郎

長野県神社庁長 感謝状

参拾万円以上寄付

- [諏訪支部] 諏訪大社(下諏訪町) 式年造営御柱大祭に多額の浄財
解脱会諏訪地区、市民新聞グループ、諏訪大社ロータリークラブ、
日本ルーフ(株)代表取締役 須永宏之、(株)オノウエ印刷、(株)田村建設 田村春夫
(有)富士小松工務店取締役社長 小松金治、戸谷濱造、エスク(株)、
八十二銀行諏訪支店、つちのえ会会長 平林治行、エルシーブイ(株)、
セイコーエプソン(株)、諏訪信用金庫理事長 宮坂久臣
- [諏訪支部] 手長神社(諏訪市) 戦没者追悼碑整備修復工事に多額の浄財
北澤鉄平(有)、北澤保人、きたご石工房、北澤五郎
- [諏訪支部] 習焼神社(諏訪市) 由緒銘板奉納
原 清
- 子之神社(諏訪市) 御影石製社号標奉納
松木尚
- 大星社(茅野市) 木製常夜燈壺対奉納
小平牧勇、小平邦雄
- [上伊那支部] 八幡社(伊那市) 多額の浄財
丸山辰男、丸山洋一、矢後悦子
- [大北支部] 八王子神社(大町市) 御影石製社号標奉納
藤岡善吉
- [大北支部] 須沼神明社(大町市) 手水舎覆屋新築工事に多額の浄財
氏子総代OB有志一同、竹内孝人
- [大北支部] 八幡神社(池田町) 舞台改修に多額の浄財
勝家哲夫、真島武、松澤哲侃、佐藤季雄、吉原正、曾根原信吾、
羽賀正勝、佐藤俊成、北澤春男、小野宏
- [更級支部] 田原神社(千曲市) 幟三対奉納
松林貞治

神社災害復興義援金のお願ひ

先般、長野県管内の各支部にお願ひしました「神社災害復興義援金のお願ひ」につきまして、再度のお願ひを申し上げます。

昨年は新潟・福井の水害をはじめ、全国各地で台風による被害が及んでおり、神社関係者をはじめ多くの方が被災されております。

特に、去る十月二十三日に発生した新潟県中越地震は、新潟県中部を中心に莫大な被害をもたらした余震が続き予断を許さない状況にあり、地域住民におかれては避難生活を余儀なくされております。

神社関係では、社殿の倒壊など二百三十社に及び、被災神社では復旧活動や募財等が到底不可能な状況が更に続くものと思われまます。

つきましては、被災された神社が速やかな災害復旧に対応できるよう、長野県神社庁に致しまして、義援金を取り纏め、被災県神社庁を通じて義援金を贈呈致すこととなりました。

義援金は篤志であり、金額は随意では御座いますが、神社界挙げて対処するものであり、特に新潟県は長野県の隣県であります。

何卒、格別なるご配慮を賜りますよう、重ねてお願い申し上げます。



熊野出速雄神社	武水別神社	常盤神社	諏訪神社	手長神社	新任	秋葉神社	建部社	昇任	稲荷神社	南和田神社	仁科神明宮	諏訪社上社(他四社)	金熊惣社(他十七社)	諏訪神社	柳新田神社(他八社)	入登山神社	仁之倉神社(他一社)	二柱神社(他六社)	任命	神社名	
本	本	本	本	本		本	本		兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	兼	本兼	職務
武藤 弘樹	佐藤浩一郎	宮本 環	小谷 拓美	山本 毅		松井 秀吾	林 邦匡		太田 陽一	森井 仁代	横沢万亀男	竹埜 正	松井 秀吾	畠山 健	宮本 環	古田 全可	宮川 滋彦	林 邦匡		氏名	
10・1	9・1	9・1	8・1	8・1		10・1	8・1		12・1	11・1	10・1	10・1	10・1	9・10	9・1	9・1	8・1	8・1		月日	
長野	更級	飯水	上水内	諏訪		大北	松塩筑		上水内	松塩筑	大北	諏訪	大北	南佐久	飯水	飯伊	上水内	松塩筑		支部名	

御嶽神社	戸隠神社	神明宮	三社	槻井泉神社	諏訪大社	諏訪大社	神社名
宮司	禰宜	宮司	宮司	宮司	権禰宜	権禰宜	職名
武居 哲也	水野 邦樹	森木 則興	横沢万亀男	松澤 茂樹	原 弘昌	北島 和孝	氏名
9・1	7・20	7・20	7・20	7・20	7・20	7・20	月日
木曾	上水内	大北	大北	松塩筑	諏訪	諏訪	支部名

昇級・神職身分二級

中牧神社	八王子神社	諏訪社	泉平神社	神社名	職務	身分	氏名	帰幽日	支部名
宮司	禰宜	宮司	宮司			正階二級上	小口 武志 様	12・10	上水内
						正階二級上	堀島 昭雄 様	12・6	大北
						正階二級上	森井 道男 様	9・12	松塩筑
						正階二級上	武井善二郎 様	9・1	長野

帰幽 慎んで御霊の安らかなることをお祈りいたします

仁科神明宮	手長神社	常盤神社(他九社)	仁之倉神社(他一社)	深志神社	辞職	先宮神社(手長神社より)	筑摩神社(深志神社より)	本務替	別所神社	生島足島神社	三嶽神社	八島神社	稲荷神社	新任
本	兼	兼	兼	兼		本	本	本	本	本	本	本	本	本
宮司	権禰宜	宮司	宮司	権禰宜		宮司	宮司	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜	禰宜
松井 武	八木 勇三	宮本 克彦	近藤 博美	中村 欽		八木 勇三	中村 欽	工藤みず枝	田名部匡了	肥後 牧子	樋口 忠彦	伴野 健一	伴野 健一	伴野 健一
9・30	10・1	7・31	7・31	7・15		10・1	7・15	12・1	12・1	12・1	12・1	12・1	12・1	12・1
大北	諏訪	飯水	上水内	松塩筑		諏訪	松塩筑	上小	上小	松塩筑	上伊那	南佐久	南佐久	南佐久



謹賀新年



<p>長野県女子神職会</p>	<p>長野県神道青年会</p>	<p>長野県敬神婦人連合会</p>	<p>神道政治連盟 長野県本部</p>	<p>長野県神社総代会</p>	<p>長野県神社庁</p>
<p>宮 長野縣護國神社 司 奥谷一文</p> <p>松本市美須々六番一号</p>	<p>穂高神社 名譽宮司 穂高守 宮 司 小平弘 職 員 一弘同起</p>	<p>戸隠神社 宮 司 藤井茂信 他 職 員 一茂同</p>	<p>生島足島神社 宮 司 武藤美登 他 職 員 一同</p>	<p>諏訪大社 名譽宮司 澁川謙一 宮 司 平林成元 上社諏訪市中洲宮山一番地 下社諏訪郡下諏訪町五八二八番地</p>	
<p>宮 若一王子神社 司 竹内直彦 大町市大字大町二〇九七</p>	<p>武水別神社 宮 司 松田孝弘 他 職 員 一同</p>	<p>手長神社 宮 司 宮坂清</p> <p>諏訪市茶臼山鎮座</p>	<p>深志神社 宮司代務者 遠藤久芳 他 職 員 一同</p>	<p>松本市 四柱神社 宮 司 宮坂信廣 他 職 員 一同</p> <p>http://www.go.tym.ne.jp/~yohashira</p>	
<p>宮 新海三社神社 司 井出雅夫 總代會長 森泉雅夫 南佐久郡白田町田口</p> <p>佐久總社</p>	<p>長野県神社庁 顧問 唐澤忠孝</p>	<p>熊野皇大神社 宮 司 曾根民郎</p> <p>軽井沢町碓氷峠鎮座</p>	<p>木曾御嶽王滝 御嶽神社 名譽宮司 滝重人 宮 司 滝和</p>	<p>木曾總社 御嶽神社 宮 司 武居哲也</p>	



謹 賀 新 年



<p>飯山市大字瑞穂 小 菅 神 社</p> <p>宮 司 鷲 尾 守 義 祢 宜 鷲 尾 隆 男 總代会長 蒲 原 良 典</p>	<p>大 星 神 社</p> <p>宮 司 関 口 守 和 總代長 水 野 洋 三</p>	<p>上田市中央北鎮座 科 野 大 宮 社</p> <p>宮 司 今 井 正 昭 總代会長 田 中 一 郎</p>	<p>上田市常田鎮座 長 倉 神 社</p> <p>宮 司 水 澤 光 男 祢 宜 水 澤 貴 利 總代会長 土 屋 忠 利</p>	<p>輕井沢町旧輕井沢鎮座 諏 訪 神 社</p> <p>宮 司 水 澤 光 男 祢 宜 水 澤 光 男 總代会長 小 須 田 勝 男</p>
<p>上伊那郡箕輪町三日町 御 射 山 三 社</p> <p>宮 司 唐 澤 克 忠 祢 宜 唐 澤 光 忠 總代会長 久 保 田 昭 雄</p>	<p>大 御 食 神 社</p> <p>宮 司 富 岡 武 彦 祢 宜 白 鳥 俊 明 權 祢 宜 白 鳥 俊 明 總代会長 堀 内 清 彦 德</p>	<p>上伊那郡辰野町小野三二六七 矢 彦 神 社</p> <p>宮 司 立 澤 節 朗 祢 宜 立 澤 壽 江 總代会長 中 村 吉 光</p>	<p>上伊那郡飯島町 梅 戸 神 社</p> <p>宮 司 茅 野 建 夫 祢 宜 今 井 泰 夫</p>	<p>上伊那郡辰野町 三 輪 神 社</p> <p>宮 司 矢 島 倭 洲 男</p>
<p>南安曇郡梓川村 大 宮 熱 田 神 社</p> <p>宮 司 山 田 充 春</p>	<p>あづみ野 住 吉 神 社</p> <p>宮 司 飯 田 泰 之 輝 氏子總代会長 丸 山 善 輝</p>	<p>中山道奈良井宿鎮座 鎮 神 社</p> <p>宮 司 巢 山 數 彦 總代会長 毛 利 泰</p>	<p>檜川村平沢 漆郷 諏 訪 神 社</p> <p>宮 司 巢 山 數 彦 祢 宜 巢 山 清 人</p>	<p>木曾郡木曾福島町鎮座 水 無 神 社</p> <p>宮 司 宮 田 正 士 祢 宜 宮 田 利 彦</p>
<p>長野県敬神婦人連合会長 安國神社祢宜 長 坂 り ん</p> <p>下高井郡木島平村</p>	<p>木曾郡開田村西野 八 幡 宮</p> <p>宮 司 神 田 肇</p>	<p>守 田 神 社</p> <p>宮 司 矢 澤 龍 一 主任總代 酒 井 義 元 會計 宮 澤 勝 元</p>	<p>上水内郡小川村小根山鎮座 小 川 神 社</p> <p>宮 司 宮 下 俊 樹 總代長 稻 葉 利 郎</p>	<p>中野市赤岩鎮座 高 杜 神 社</p> <p>宮 司 望 月 巖 穂 氏子總代 嶋 田 健 三</p>



謹 賀 新 年



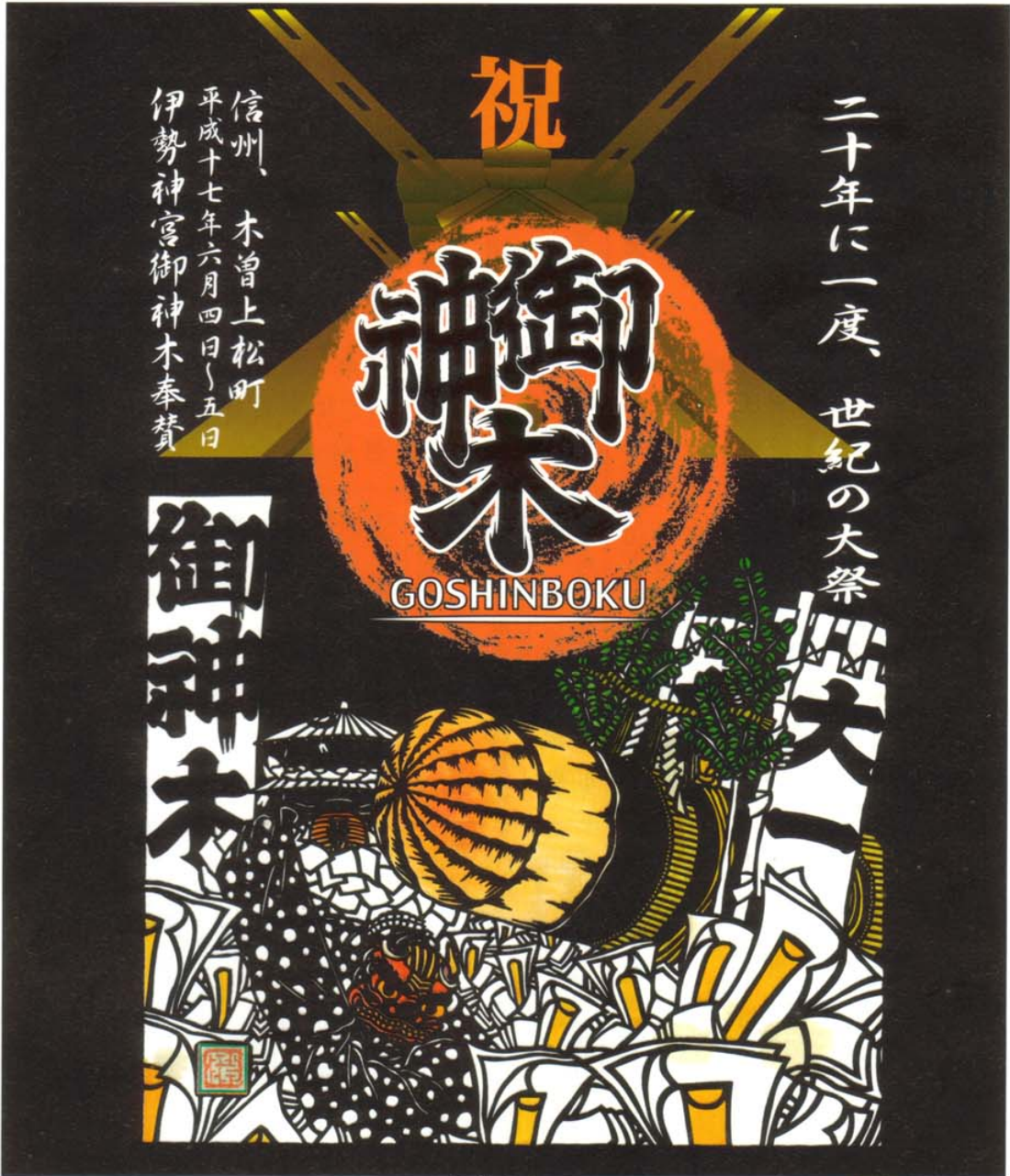
<p>象 山 神 社</p> <p>宮 司 瀧 澤 けい子 基</p> <p>長 野 市 松 代 町</p>	<p>美 和 神 社</p> <p>宮 司 齋 藤 吉 仁</p> <p>権 祿 宜 矢 澤 龍 一</p> <p>長 野 市 三 輪 鎮 座</p>	<p>信 濃 招 魂 社</p> <p>宮 司 齋 藤 吉 仁</p> <p>祿 宜 齋 藤 吉 睦</p> <p>長 野 市 上 松 鎮 座</p>	<p>武 井 神 社</p> <p>宮 司 齋 藤 吉 仁</p> <p>祿 宜 齋 藤 吉 睦</p> <p>長 野 市 東 町 鎮 座</p>	<p>健 御 名 方 富 命 彦 神 別 神 社</p> <p>宮 司 齋 藤 吉 仁</p> <p>祿 宜 齋 藤 吉 睦</p> <p>長 野 市 城 山 鎮 座</p>
<p>西 宮 神 社</p> <p>宮 司 丸 山 肇</p> <p>役 員 總 代 一 同</p> <p>えびすの神</p> <p>長 野 市 岩 石 町 鎮 座</p>	<p>荒 井 神 社</p> <p>宮 司 唐 澤 克 忠</p> <p>祿 宜 唐 澤 光 忠</p> <p>總 代 會 長 熊 谷 友 江 喜 代 美</p> <p>副 會 長 宮 原 喜 代 美</p> <p>伊 那 市 荒 井 区</p>	<p>仁 科 神 明 宮</p> <p>宮 司 横 沢 万 龜 男</p> <p>總 代 會 長 平 林 正 興</p> <p>大 町 市 社 宮 本</p> <p>国 宝</p>	<p>鳩ヶ嶺八幡宮</p> <p>宮 司 遠 山 景 政</p> <p>権 祿 宜 遠 山 景 一</p> <p>總 代 一 同</p> <p>飯 田 市 八 幡 町 鎮 座</p> <p>(重 要 文 化 財 菅 田 別 尊 神 像)</p>	<p>小 井 川 賀 茂 神 社</p> <p>宮 司 有 賀 寬 典</p> <p>岡 谷 市 加 茂 町 三 一 六 一 八</p>
<p>三 嶽 神 社</p> <p>宮 司 宇 治 橋 邦 彦 淳</p> <p>祿 宜 宇 治 橋 邦 彦 淳</p> <p>塩 尻 市 中 西 條 鎮 座</p>	<p>箕 輪 南 宮 神 社</p> <p>宮 司 唐 澤 克 忠</p> <p>祿 宜 唐 澤 光 忠</p> <p>總 代 會 長 青 木 五 郎</p> <p>箕 輪 町 大 字 中 箕 輪 木 下</p>	<p>有 明 山 神 社</p> <p>宮 司 等 々 力 満</p> <p>南 安 曇 郡 穂 高 町 大 字 有 明 字 宮 城</p> <p>彫 刻 で 名 高 き 裕 明 門</p>	<p>富 士 山 稻 荷 神 社</p> <p>宮 司 市 原 貴 美 雄</p> <p>職 員 總 代 一 同</p> <p>飯 田 市 浜 井 町 鎮 座</p>	<p>王 日 神 社</p> <p>宮 司 傳 田 幹 彦</p> <p>中 野 市 諏 訪 町 鎮 座</p>
<p>長 沼 神 社</p> <p>宮 司 長 沼 忠 行</p> <p>祿 宜 長 沼 房 子</p> <p>長 野 市 大 町 鎮 座</p>	<p>永 持 は な 子</p> <p>松 本 市 芳 川 村 井 町</p> <p>長 野 県 女 子 神 職 會 長 神 明 宮 宮 司</p>	<p>大 宮 五 十 鈴 神 社</p> <p>宮 司 白 鳥 俊 明</p> <p>祿 宜 白 鳥 操 子</p> <p>駒 ヶ 根 市 赤 穂 鎮 座</p> <p>http://www.avis-ne.jp/~tsuzuki/</p>	<p>白 山 社</p> <p>宮 司 伊 藤 光 宣</p> <p>伊 那 市 御 園 区 鎮 座</p>	<p>小 野 神 社</p> <p>宮 司 宇 治 橋 邦 彦 淳</p> <p>祿 宜 宇 治 橋 邦 彦 淳</p> <p>塩 尻 市 北 小 野 鎮 座</p>



謹 賀 新 年



<p>稲 荷 神 社 宮 司 伴 野 慎 一 郎 總 代 長 寺 島 章 之</p> <p>南佐久郡白田町白田鎮座</p>	<p>洲 波 神 社 宮 司 宮 澤 民 雄 祢 宜 小 平 和 彦</p> <p>南安曇郡豊科町南穂高</p>	<p>東筑摩郡麻績村五五八三 重要文化財 麻 績 神 明 宮 宮 司 宮 坂 今 朝 矩 役 員 會 長 宮 下 泰 一 電 話 〇 二 六 三 一 六 七 一 三 二 四 一</p>	<p>長野市松代町皆神山 熊 野 出 速 雄 神 社 (皆 神 神 社) 宮 司 武 藤 登</p>	<p>上伊那郡南箕輪村 殿 村 八 幡 宮 宮 司 唐 澤 克 忠 祢 宜 唐 澤 光 忠 總 代 會 長 小 林 広 幸</p>
<p>白 鳥 神 社 宮 司 石 和 大</p> <p>神道青年全国協議会理事</p>	<p>山 家 神 社 宮 司 押 森 弘 文</p> <p>真田町鎮座</p>	<p>小諸市鎮座 鹿 嶋 神 社 鹿嶋立つ社頭より貴家の弥栄を 祈念申し上げます。 宮 司 金 井 重 忠 總 代 長 竹 内 弘</p>	<p>重要文化財 「野ざらしの鐘」 松 原 諏 方 上 下 二 座 宮 司 鷹 野 健</p>	<p>佐久市鎮座 荒 船 山 神 社 宮 司 小 間 澤 肇 總 代 會 長 小 島 鶴 雄 氏 子 總 代 一 同</p>
<p>八 王 子 神 社 宮 司 平 林 秀 文 權 祢 宜 横 澤 敬 太 郎</p> <p>大町市常盤西山鎮座</p>	<p>刈 谷 澤 神 明 宮 宮 司 山 崎 洋 一 總 代 會 長 宮 入 清 一</p> <p>東筑摩郡坂北村鎮座</p>	<p>神 社 庁 松 塩 筑 支 部 支 部 長 宇 治 橋 淳 副 支 部 長 大 澤 明 三 副 支 部 長 宮 坂 信 廣</p>	<p>木曾郡上松町 駒 嶽 神 社 宮 司 德 原 正 三</p>	<p>木曾郡上松町 諏 訪 神 社 宮 司 德 原 正 三</p>
<p>湯 福 神 社 宮 司 齋 藤 安 彦 權 祢 宜 齋 藤 節 朗</p> <p>長野市箱清水鎮座</p>	<p>飯 山 市 緑 鎮 座 布 施 田 神 社 宮 司 宮 本 克 彦</p>	<p>長野県女子神職会顧問 津 島 神 社 宮 司 瀧 澤 け い 子 長 野 市 松 代 町</p>	<p>上高井郡小布施町鎮座 逢 瀬 神 社 宮 司 久 保 田 守 彦 權 祢 宜 久 保 田 守 彦</p>	<p>千曲市若宮鎮座 佐 良 志 奈 神 社 宮 司 豐 城 直 祥 祢 宜 豐 城 憲 和 主 任 總 代 中 沢 弘 光 外 役 員 一 同</p>



〒399-5603 長野県木曾郡上松町駅前通り 上松町観光協会
 TEL0264-52-2001 FAX0264-52-2150